HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市学に対する社会学の貢献
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1958-11-22
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77332
Type	manuscript
Note	昭和 33年 11月 22日。
File Information	D008_0133.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

狛江記録 1

NOTE BOOK

MADE BY SUPERFINE PAPER

都市學に対する

社会学よりの貢献

33.11.22

II

goshen

メノナイト

KA

20

都市学に対する社会学よりの貢献

一、都市学と村落研究学

二、社会学の中心課題

イ、人間社会生活の基本的構造

ロ、四種の基本社会

a.同居団体

b.村落

c.都市

d.国民社会

三、有りの儘の概念

イ、ありの儘と云ふ意味

ロ、実證的の意味、実験の意味

ハ、直接の研究対象

a. 現在

b. 自分の所属の社会

c 反覆的総合観察（が社会生活に於ける実験）

四、都市社会学理論に於ける私の所論

五、都市の中心問題

六、第一、聚落社会の概念

七、第二、都市の機能

八、第三、都市の社会構造
九、第四、都市の生活構造
十、私の所論に対する批判に
批判に答へる

一、都市学会と村落研究会

都市学会も村落研究会も共に我が
直接関係ある学会である。それが
明らかに学会であるところに問題がある。
都市学会も村落研究会もそれが、
もし行政者や社会指導者の組
織する会合であるなら、何の問題もない。
有益な会合となるであろう。都市とか
村落とかを各々の角度から研究し、その成
果を都市の発展や村落の発展に
略せんと試みるのは大いに意義ある
ことである。そこでは発展とかから
如何なる意見も評価をうけ
その評価に聴従する

それは私には随分苦しい試錬であった。

＃私は農村社会学に志した時から、社会学界の立場からの意見を求められる席上に屢々出席したが、社会学のみがその与へられた[illegible]貢献し得る[illegible]ある。

(回)当時は日本の社会学者の中には何であるかを[illegible]

私は社会学の貧困さを切実に感ぜざるを得なかった。

構造論は何であるか。当時の日本の社会学者の中にはそんな苦しみを感じて居た人はなかったかも知れぬが

私は一人であったかも知れぬ。

同じ様な立場からの発言を求められた[illegible]

当時の日本の農村には今日とは比較にならぬ程

現実的な問題が其解決を求めて居た。

かくてある。

私はもとより経済学者や政治学者としての研究が出来た訳ではないが、私の学問が何か苦しむ人の助けになる事が出来ればと考へて居た。[illegible]役立てたいと云ふ気持は切実であった。

当時の立場からの

調査社会学者として

事からではあるが経済学者の研究し社会学の研究し史研究の研究し

問題事項の研究し

行政官や社会指導者は皆殆ど考へられてする

が出来る。取捨選択は全く彼等の評価に

任されるのである。＃

凡そ正当な意味での

従ってそんな単純な問題は

あまりすぎでは

社会の事物は何れも猶色んな各科学の

研究は各々の学問の側面を異にして

方法

居るのであるが、互に他を尊重して

考へて居た私には

考へる事はありながらして之れ難解[illegible]

するかぬきさは許すすかしさ事である。

正しい概念の確立と法則性の発見以外

に没頭すべき[illegible]

[illegible]

ます

、又はよい

如何なる人の生産物を搾取するかが問題で、彼等は

中心問題であった。搾取可能な最低の生活に終った

農民を救はんには農村生産を搾取する

小作者の苦しみは小作者にわかる

㊀吉は農村の貧しい問題をもって行った人には行路

食、社会指導者達はもとより経済学者、農学者は

行くがまでであった。※彼等は皆等しく農民を

農民の生活の場所である。農民は農産物製造

者として見る見方は一様であった。そしてそれ

農民は農産物の生産者であるが一人の人

間であるといふ事を、農村は農産物を生産する

土地である。農村は自然業を成し人格を

もって居る人々が集って居る生活共同の場所

であると主張した。私の立論はいつもこうなる

ように私はそれが社会全体の発展を

主張した。私はそれが社会全体を

社会をとして私が農村の問題

に対して空想した論とすっぺてであった。△

（信じて居た）

＃彼等は皆都市（営利）に住んで居る人々であったから、

彼等の考へ方は都市中心的な考へ方で

あった。

農村は農産物を生産して居るところ

農民は農産物を生産する生産力

と考へられて居た。彼等は農村の発展

とするは農業生産力の発展とみる外はなかった。

価値の世は学問の操作には過程かはすぎてはない。

ものが、方法が望ましいは

△こんな主張をしそれは社会学者の見方と

反論する人もあるかと思ふ。然し私は都市

に対しても同じ様な考へを持って居る

発言をあるとも思ふ。こんな発

言を科学的な根拠の上に主張しなる

ものは社会学以外にはないからである。

㊉こんな考へは社会学の見方かも知れぬがしかし

社会の考へ方は先ず第一に考へを発見し

して重要な要素がある。

念を押しておく

六、社会学の中心課題

私は都市社会学には社会学の立場から貢献しやうとして居る。社会学の立場と云ふ事を私は次の様に解して居る。

人間社会の基本的構造の究明と云ふ事が社会学に課せられて居る[illegible]課題である、と思つて居る。人間社会の基本的構造の究明には勿論様々の方面の研究が色々様々に参加し得るのであるが、人間社会の基本的構造が、（一）同居関係（主として家族）、（二）村落、（三）都市、（四）国民社会の四つの強力な柱の下に

主として営まれてゐるのは明らかの体系である
から、この四つの框ともの構造や機能△の究明
とゐるか
闡ま研究は何れの社会学的研究にも
見失はれてはならぬものの様に思ふ。
この四つの框について充分の見通しがつかなくし
てどうして社会生活の正しい理解が
あり得ようか
社会生活に関して学問上は△の方面からの
研究があるか、これ等の框についての
研究に努力して来た(得)学者は社会学
以外には存しない。他の学問もこの框
に対する研究は之ろ社会学に期
寧ろ北ろは

~~#~~存し我々今の学派史が濫らンするよ。

は此處である。

待して居る最大最高のものである。

事を我々学会自体は忘れがちで(は)ならん。

これ等の担ひ得ず研究は忽ち能ふ限り我々学の責任として

では無いのみならずそれを否踏む道程の

目標をすすむものである。

我々学は部分的に様々の局面を（社会生活の）研究も

して居るが、それ等様が我々学的な研究

でないと云ふのではなく、それ等の研究も（として価値少ない）

直接的には間接的には人間社会生活の

基本的な構造の究明研究に

目ざして居るものと云ふ事が出来よう。

中心的課題が明確でなければ、社

会学は百家百説を主張し百鬼夜行 #

私が基礎理論の思弁的研究者達の研究に見切りをつけたのは、それ等の理論が実際から遊離して（すら方法がなかったら実践して見て）居て、実践して見ると結果が反対の事実が示されねばならぬからである。

私はよく実験して納得のゆく理論でなければ、たとへ偉いと云はれる学者の研究でも同化しない。先ず選べた二つの常識的理解を基礎として、其の上に立てられた基礎理論の研究は尽く空論に終るのは当然である。

従来の研究は研究の机上から出す結果の中間的なるものはかりであると云はねばならぬ。従来の研究の基礎の上に立って居ないからである。

#を出来る丈直接に出来る丈正確に

三、有りの儘の観察（の構造）

右の如き基本的社会の理解の為には、社会生活の有りの儘がわれわれ観察が必要である。有りの儘の観察とは、先入観念を捨て去り、其の観念に捉はれずに観察することである。その為には特に強調さるる必要がある。もっと具体的に云へば、社会法則の何れの見地よりしても、又自由主義や民族主義や解放思想にも捉はれぬ観察を為すことである。

経済学者は重要な問題を観察し、義務の問題に依れば、倫理的自由を……

(11)

従来諸[illegible]法的[illegible]を絶対的な[illegible]又

ものと認めて妨害する者

然るに

なお何れも社会生活をあくの者し妨害して行くものであれば

切りい

国家的[illegible]

を責任の関係に於いて又 或いは [illegible]の[illegible]

殊に[illegible]は階級的支配と被支配の関係

において闘争しようと[illegible] [illegible]

はそれぞれの側面にも闘争する

[illegible]ありの[illegible]の中の人と人との

関係が何であれ、如何なる力に動かされ

[illegible]行くかを理解し

型とを整理して何が基本的な関係である

かを見定め行く。[illegible]は[illegible]関係[illegible]である。

[illegible]の関係とを[illegible]明しかれは

都市を構成している人間関係は何

であるか、何かが最も基本的な支柱の関

ⓒ 都市とは何ぞや、村落とは何ぞやに答へる為には都市とか村落(社会)とかを為す基本的な社会構造(同時に部分的な)理解の上に立つものでなければならないが、その為には都市生活における社会団体のあらゆる型の究明が先づ(組織)全体的把握が必要である。

(卅) 只社会のみが私家の研究を可能ならしむる唯一つの時間的な断面である。ここに私家が社会と云ふは相当に厚みをもつもので、あるが、要件は社会団体の型が同様の形態を保つて来た同は(意識的な社会と常に社会生活と認められるのである。)

a

係であるか。それを知る為には都市生活に存するあらゆる団体の型を整理するのみによって始めて可能である。

ⓒ 現在都市生活における基本的な社会構造は何であるかを知るのは、又その為には都市生活のあらゆる側面を(個々あらゆる場合を観察して)もくり返し、未多くの観察者の十分な観察し重ねてはじめて可能である。かくの如き観察は不可能であるのは時間的には現在以外には求められない(卅) 歴史家に残つて居る過去の足跡は過去の何れの時代にも社会的共同に其の時の社会については云へる。

※元々学者は実証的であるべ
ルは史料的な批判の調査研
究の上に認識の出発点を据え
点をおくべきものである。
歴史的研究が社会学では決して出発点な
研究であるとするのであるが
か基本的社会学構造を定眼とする
上に... 総合的観察を
必要なものであるか、構造は現在に
社会学研究資料を... 何はなかろう
歴史的研究は社会学の一部分
の研究
趣風に関する
社会学の研究は総合的観察に関するものでないからである。

を総合的に観察せしめんとする史料
の存する... 九牛
の一毛だに... 残してない。
観時についての...
文書後世に残るであろう史料と見ればれ
史実や記録や文書等は
観時の研究... 社会の...
ならぬ。強いて多くの社会の...
合の...調査しなければならぬ。
謂いてある
偶々残って居る過去の記録の
て... 一つの社会団体の総合的研究でも
立てるかと...
手向ける。
危険も甚だしい。
※

c.　　　　　　　　　　　　　　　　　　6

次に社会関係は意味の世界に於ける出来事であるが、意味共通の世界は所属する社会毎に特に国民社会を異にする毎に著しく異って居るから、研究者は自分の所属する足下の社会に研究の足場をおくことが必要である。正しい意味の理解はその意味の世界の生活実践者でなければ能くなし得ない場合が多いから。

人間生活の基本的構造の認識を究極の課題として居る社会学は社会関係のあらゆる領域を其の全体の中の修むべきものであるが其の研究が充分の客観性を帯びる為には同一のもしくは同様の社会が何人によって研究

されしもの、又は幾度も反覆し研究
し得るものでなければならぬ。自然科学
における実験は條件を等しくして研究され
を研究するものであるが、社会学などにおけ
る実験は條件を等しくすることは不可
能である。故に（そこでは）多くの人が（同時に又は）何度も繰り
返して研究し得るところで満足しなけ
ればならぬ。故に社会学で取扱ふもの
は可能な類型に外ならぬ。（具体的な）社会図は
の様々の事実の中から漸次高度の類
型を~~抽~~分ひ、如何なる類型の社会図
係が個々の基本構造を組成し
其の

て尺よかを決定めんとするものである。この
類型の概念はある人々の一部の形式の
の概念に近いところもあるけれども、
類型の体系化の中心概念そのものに
社会学の課題を見出すまたなどとは私は決して
て考へて居ない。社会学の究極の研究
課題は人間社会の基本的構造の闡明
であって、其の為に具体的なあらゆる人
間関係の類型を体系化し整理し
て行くべきである。
都市は人間社会の基本的
構造中の重要なる一領域を形成

しているのであって、その社会組織一
が如何に構成されているかの究明は
都市の[illegible]関係する学者に課されて
いる最窮極の課題である、又社会
学以外の科学よりは決してはたされ
ない研究課題である基礎化する。

以上
14ps

（五）

四、拙著「都市社会学原理」における私の所論

拙著「都市社会学原理」における都市に関する私の所論の中、次の四つの点は私の立論の支柱をなす様な理論であるが、それは全く社会学的研究の地盤であるとさへ云ふ事が出来る。　私の考へが正しく理解される為に、ここにその要旨を述べるは無駄ではあるまいと思ふ。又この拙著において論及し得なかった点もあるので、ここで少し補述したいと思ふところもある。

（六）

第一 農村社会の概念

先づ第一に私は「農村社会」の概念に到達して居る。私の研究の起点は現在の日本に於ける農村の社会的事実の観察に始まって居る。私が農村社会の概念を措定したのは（も）現在の日本に於ける村落と都市と（それから）都市化の過程「を」と観察す」中に到達した（そこで私が到達した）ものであるが、民族学へか歴史研究の結果や地理学者の研究の結果とも符合して居ないことを知った。此氏族へは歴史的研究の事実をも重視するが、考へられるが、それは実証に

訪問者として

研究者としての私は、直接には余り同化しては
ない。私は山村、村落より都市が、発展に生まれ(すよ)
と云おうす、村落と都市とは共通の
基本的な機能をもつものであるはずよ
を確認して満足した。村落に
何かかかわる力がはたらくことによって加わった丈都市
的に向かうことを可能を見定めてたが、その
何か決定的には何かが「同化してであった」苦心した
とこでである。北海道の荒れ地の
研究をして居るうちにその何かは社会
的交流の結節的機関だとするよう
に思いあたった。私が結節的機関
見知らぬ人との社会関係の場が村落的社会を（知ったのは余程あとになってからである）
都市的に向はしむる契機だとあきらかになった

吟味の役をなすものである

と云ふものの発生増加と共に都市性がそれに比例して増加すると云ふ事実をその後私は数多くの事例によってたしかめる事が出来た。一般に非農的生業と云はれるものは殆ど皆社会的交流の調節としての機能を演じて居る社会的機関であるもの居る事は非農的生業者の集って居る聚落を都市と考へる事は一般に常識的になって居る。であるから、その非農的生業は皆社会的交流の調節の役をなして居るよとの発見は一つの飛躍した見解であったと自分で思って居る。社会的交流の調節と云ふ働き

結論

私の考へも其の考へに一致したのだ。過ぎなかった。常識的な考へであったけれども

◎ 私は都市の機能を根拠づける為には生業に関する分析を初めからやらなければならなかった。

#

都市に人口が集中して来住するのも
都市に人が盛んに往来するといふ事も
既に交通の近代化の激甚が加はつて行
くよし、都市に生業の分化が生じ、
都市に高い文化が見られ高い生活
水準を見ると云ふ事也
皆都市に経済的機関が集まる
と云ふ事の中枢集中は（に伴って）生ずるのである。

決められると其じちに
が都市の様々の性格も解するかゝある　#
次に都市は右のやうく村落に比し経済的交流
の経済的機関即ち官庁とか商店とか
市場とかサービス業とかが少しかはつて行くことに
よつて村落的より都市的には遥かと云ふ事は
我々の周囲にあるのは山積してゐるから
ここに疑念を抱く人はないと思はれるが、
村落と都市とを共に集落と見るの
は両者に共通の組織が存在し、都市は
村落の経済的機関ばかりが大きい丈が村落と
異なる点であると云ふ事を実際に説明したかつてある。
村落も都市も共に古くからの組織は

六 その他の共同災害に対して共同防衛の活動が見られるのは今日の村落にも古い時代の都市にも見られた事は明らかの様である

一、共同災害に対する共同防衛の機能
と二、生活協力の機能であるすは私は積極的な又は消極的な予防によ論ずる事が出来る
古い時代村落住民には共同災害は色々の天災や人
災が考へられるが、今日の都市の様に交通通信の機関
が発展し国家が今日の様に領土内の治安の任
にあたって居る時代においては官庁的巨大集落
をなして居る今日の大都市では火災に対する
防衛体制が日常茶飯事である。然し交通通信
防疫給水、送電、通信も居住大集落の共
同災害を不断に防衛して居る機構である。
小さな村落では一朝事ある時は自衛団が村の共同責任によって

⑩大都市の色々の施設はそれを常備
的或は同時的に整備して居る丈
のもので、之丸と

組織されて不眠（不休）で其の防衛の為に活動する。（被害は）
ものも⑩全然同一の性格である。より科
学的にあらう。より合同的になり、より
常設的になって居る大都市防衛施設
は大都市のすみずみまで不断に警報の
眼を光らして居る。大都市も一個の巨大
な（統一的な）国民防衛力をもって居る（といへる）では未
之等は吾々個人は警防の組織を検討するにせず
我国の完全な組織であるかも知れぬ。
農村方面の第二の機能は其の住民が積極的（或）
に或いは消極的に生活能力の体制をなして
居ることである。村落では思想の感情的な
団体が協力の秩序を組織し、より合理
（生活）

的な交易の制限によって協力の秩序が（又打算的な より）
維持されて居る。この問題は商業に説明
するには面倒すぎる問題を含んで居るので
今ここで充分に説明することは出来ないが、
勘平れ働いて居る者は、植木屋の者も（うちで居た）
見ず知らずの赤の他人のウドン屋に飛び込んで
いくらかのお銭（の代償として）を出せば旨いウドンを食
べ見ず知らずのウドン屋が出して呉れるのを
対して対等の反対給付が与へられなければ出来ない（求めようが出来る）
であると思い込んで居る我々には、（の頭）
うっかり見ず知らずの植木屋が協力者だとは解し（ウドンやが 商業には）
難い。けれども生活の協力は実は愛に等
ちん感情的な協力丈ではなく一つ（各自が打算の為に）

未知の人の間の日毎の

又は接触せんとしてゐる協力もある。
宮廷的大家族に於ける協力は合理
封建的、利用、搾取等々の非人間的
な形をおいるにまってゐる。けれども、それ
が協力である限り、非合理的なものはない。思へを覚
（いつまでも長く人を支配する様な形）
りされによって協力を秩序へを保つ村落
のボス的な感情的な協力とよへ対照
である。村落では人々、家と家との間に
因襲の網がはりまわされそれによってねばっ
こいさっぱりしない村落的秩序がある。
それに比すれば合理的交際による都市の
彼らの都市の協力は最も愛すべき存在

設備をもって居るではなかったし、
村落でも都邑でも人は孤立的には、その集落が非常に大では常に
他の集落の生活に必要なるものを求める為
の生活に必要なものは多くなお近隣の他の集落に
に出かけなくても生活の資を得てある。その集落内での必要は充たされる。村落
は多分に自足自給の経済をなして来たが
今日の家庭としても村落としても他の協力なしでは
生活する事が出来ない範囲が多かったが、これを協力に
今では人が食料を自給しなくなった時から交易
によって生活せざるを得なくなって来たので
あるから、協力が人の生活の協力を除いては一日もな
今日の合理的な協力の制度として
活が出来ない。交易の制度がなくては発達せ
ざるをえなかったのである。協力の最も合理化

化し簡純化したものが、實用である。實
用は都市に於ける生活協力であると云ふのは の技術 合理的な
それ程各種論理では無く あるまへ

（七）

二　都市の機能

都市は村落と同様に集落社会としての性格をもって居ると共にその上に社会的交流結節としての機能をもって居る。都市をして都市たらしむるものはこの社会的交流結節としての機能であり、社会的交流結節として都市が存在し作用して居るのは社会的交流結節の役を事実上演ずる色々の生業がそこに集まって居るからである。社会的交流の役を演ずるといっても、生業それを目的として生業者は意識して居るのではなく、生きんがための生業活動が結果において交流結節の

以上16pts（+14）

国民社会内の社会的

役を営なんで居るまで
~~結果となつて居るのである~~。
私は今日の文化の段階では事実上社会
的交流の大きな強力範囲をなして居るも
のは「国境」即ち国民社会の境界範域であると思はれ
て居る。国境の線の上で一切の社会的文
化の流れは一度ストップして居る。
国の中央からの一切の指令はさいはての
一農家までも間違いなく届いて居るが、
国境の線に達すれば直ちに停止する。を越しては完全に気力を失なふ。商品
の流れも教育の指導方針も生活文化新らしい
も映画も政府の圧力も、保護もマス・コミの流動も国境の
線上で停止する。私共は民国民社会

の地域的限定の峻厳さは直ちに之を認めなければ
ばならぬ。ヒューマニズムの要求、国際社会の
華やかな活動に私等は惹かれ易いけれども
(学究的なあり)環境の高い高い障壁を社会学者は
強く認識して居る必要がある。
都市は(社会的交流の)諸都市的機関の集まって居るところ
ろであるから都市其のものをも社会的交流の
結節となって居ると述べる時、其の社会的
交流は事実上国民社会内に於ける
社会的交流を意味して居る。
すなはち国民社会は本来政治
的によって基礎を与へられて居る社会

である。口家の主権が統治してゐる領土内の口民の社会である。そこでは何よりも統治を行ふ者が第一義的に支配して居る。口家内の統治の都合上口家の中心地に権力の発動するところとして首都が設定され、この首都より口の領土内のどんな小さな一軒家にまでも口の統治が及び保護の恩恵をあたへると共に義務が要求される。口家の統治は断え間なく全口民を監視する必要がある。あらゆる情報を口の隅々から絶えず受け取りける為に又あらゆる障害

統治上の

に対して中央政府の決定が直ちに出来る為に或いは一国の中心から直ちに兵力が急派され得る為に、国内の要所毎に不断にその治の施設が出来、又かくの如き地方的要所の統治が中央毎に又何段もの管轄地域支所や出張所が設置される。統治の中心である首都のまわりに直轄地区、その下の府省所在地、その他の都市町村などの所在地がある。これは誰も認めるところである。これ等の各段階の統治施設を通して国家のどの一軒からも、例えば税金はすべてあげられて首都の中央政府に集中する。国民のどの一人められる。